

## 申請書 記載要項

**※ワープロまたはボールペンで記載してください。**

### 【申請者】

研究代表者の氏名を記名押印してください。郵便番号、住所、ご連絡先等、空欄は全て必須事項となります。「所属機関」は主な所属先を一箇所記入してください。

### 【連絡責任者】

主に財団事務局と連絡を取られる方の連絡先を記入してください(申請者本人の場合は同上と記入) 選考結果通知など書面の送付先、メール・電話での連絡先となります。財団からの主な連絡手段はメールとなりますので、日頃より確認するアドレスを記入してください。

### 【テーマ】

申請研究テーマを簡潔に記入してください。

### 【助成申請金額】

申請金額を記入してください。研究総額と異なる場合は「研究総額」も記入してください。

### 【形態】

個人研究の場合は「個人」に、共同研究者がいる場合は「共同」に○印を記入し、共同研究者の人数を明記してください。

### 【研究の背景と目的】

申請の研究主題に至った背景(医学的背景、社会的背景など)、また在宅医療の中での意義・独創性などについて説明してください。

### 【研究の計画・方法】

研究を進める具体的なスケジュールと方法などを記入してください。共同研究者がいる場合は、その役割についても説明してください。

### 【期待される成果・波及効果】

この研究の成果が在宅医療に波及し、活用されると考えられる研究の成果のエンドポイントを説明してください。

### 【申請者の自己紹介】

現在どのように在宅に関わられているか等ご自由に記入してください。

### 【他機関への助成申請の有無】

類似テーマにて他機関に助成申請及び予定のある場合は、記入してください。  
本申請書提出後に助成決定の通知があった場合も当財団にご連絡ください。

### 【共同研究者】

同研究に参加する主要研究者の氏名等を記名押印を記入してください。  
4名以上の場合は <<共同研究者追加記入用紙>> をダウンロードの上、提出してください。  
申請者と同じく過去2年に財団の助成対象経験がある場合は申請することが出来ません。

### 【助成金使途内訳】

(1) 原材料等消耗品、旅費、謝金などの費目に区分し、主な費目の目的、使途、単価などについて詳細を記入してください。運賃はエコミー料金を上限とし、その旅程を明示してください。

(2) 合計金額は助成申請金額と一致するようにしてください。

※下記の経費は原則助成対象となりません

- ①申請者本人(共同者研究者を含む)の給与及び謝金 ②汎用性のあるハード機器類、  
図書購入費、学会参加費など ③組織などの一般管理費

例：パソコン、デジタルカメラ、ICレコーダー、プリンタ、シュレッダー、マイク、  
スライドスクリーン、プロジェクター、ソフトウェア、HDD、メモリディスク、  
机、椅子、かばん、その他の汎用性のあるハード機器類、書籍購入費、  
学会参加費及びその旅費交通費、申請者及び共同研究者への給与・謝金、  
組織などの一般管理費

(3) 助成金使途内訳に記載されていないものへの助成金の使用は原則として認めることは  
できませんので詳細をご記入ください。(詳細は【募集要項】をご参照ください)

### 【例】

| 費目             | 金額       | 内訳・算出根拠など                        |
|----------------|----------|----------------------------------|
| 共同研究者との打ち合わせ   | 80,000円  | 会議室使用料・・・万円、<br>飲物代・・・円、人数・・・名   |
| 通信費            | 300,000円 | 切手80円 ×・・・枚<br>切手120円 ×・・・枚      |
| 旅費(滞在費) 東京～新大阪 | 100,000円 | 単価・・・円、回数・・・回<br>共同研究者との打ち合わせのため |
| 合計             | 480,000円 | ← 助成申請金額に一致                      |

2012 年度（前期）一般公募  
 「在宅医療研究への助成」

申請日：平成 24 年 5 月 29 日

|         |             |   |                     |      |     |  |
|---------|-------------|---|---------------------|------|-----|--|
| 【申請者】   | ふりがな        | りくにもと しゅうじ  | 生 年 月 日             |      | 性 別 |  |
|         | 氏 名         | 李国本 修慈 印  | 1 9 6 5 年 5 月 1 日 生 |      | ○   |  |
|         | 所属機関        | NPO 法人地域生活を考えよーかい   | 職 名                 | 代表理事 |     |  |
|         | 所属機関<br>所在地 | 〒 664-0006<br>兵庫県伊丹市鴻池 5 丁目 11 番 27 号<br>〔TEL〕 (072) 785-7873 内線<br>〔FAX〕 (072) 771-1203<br>〔E-Mail〕 <a href="mailto:kunimoto@kangae-yo.com">kunimoto@kangae-yo.com</a> |                     |      |     |  |
| 【連絡責任者】 | ふりがな        | りくにもと しゅうじ  | 代 表 者<br>との 関 係     | 同 じ  |     |  |
|         | 氏 名         | 李国本 修慈 印  |                     |      |     |  |
|         | 連絡先         | 〒 664-0006<br>兵庫県伊丹市鴻池 5 丁目 11 番 27 号<br>〔TEL〕 (072) 785-7873 内線<br>〔FAX〕 (072) 771-1203<br>〔E-Mail〕 <a href="mailto:kunimoto@kangae-yo.com">kunimoto@kangae-yo.com</a> |                     |      |     |  |

|   |
|---|
| 【 テーマ 】   |
| 重症心身障害児・者、超重症児等といわれる方々らの地域での暮らしを可能にするための実践の確認及び普及と今後の医療及び福祉等の在り方と地域間格差の確認及び考察、ならびに少数派といわれる方々及び関係者らのネットワークの強化。 |

|          |           |   |           |
|----------|-----------|---|-----------|
| 【助成申請金額】 | 1,761,040 | 円 | （研究総額： 円） |
|----------|-----------|---|-----------|

|         |   |     |             |
|---------|---|-----|-------------|
| 【 形 態 】 | ○ | 個 人 | 共同（申請者の他 名） |
|---------|---|-----|-------------|

## 【研究の背景と目的】

ここ数年、重症児・者、超重症児等といわれる方々への在宅医療・訪問看護等の需要及び関心も高まっているところですが、当事者（家人等を含む）からの「安心して地域で暮していける」という声が著しく増加したという印象は持てずでいます。

申請者は、ここ十数年ほどの間、地域での生活支援活動及び事業を行ってきた中で、福祉基礎構造改革等の流れによる法制度の充実とは別に、未だにその流れに組み入れられないといった感の方々が存在することを強く実感しているところです。

その上で、既成の福祉（制度等）のみではない、未成あるいは無成の福祉（制度等）といったイメージ（個々の地域での個別実態に合わせた個別実践の実体化）を進めていければと考えています。

また、昨年度までに申請者は在宅医療を推進するという医療職の方々との関わり（研究等による）を持たせていただきましたが、医療職者における地域生活支援への視野・意識・知識の偏り、また、希少では在りますが、地域での生活を謳歌している重症心身障害児・者及び超重症児等といわれる方々の実態や、それらを支援する実践等が知られていないことを痛感しました。

これまでに在った病院等の医療機関からみた在宅医療という視点のみではなく、阪神間（兵庫県）等で行われている当事者といわれる方々らの実態（例えば医療ニーズを要する重症心身障害といわれる方々が1人暮らししている実際など）や実践を広く各地にお伝えし、また各地に在ると思われる個別実践等を見聞しながら、職域に捉われない緩やかながら強固なネットワークの形成と、「在宅医療」（医療者本位的）から「地域生活支援医療」（利用者本位＝本研究への助成の募集要項にある文言でもないご本人及び支援者との相互主体としての共生医療というようなイメージ）への意識転換・価値観転換が図れることを目的としたいです。

## 【研究の計画・方法】

研究実施期間に毎月1～2度、全国各地へ訪問し、阪神間等での重症心身障害児・者及び超重症児等といわれる方々らの生活実態及び支援（共生）実践の紹介と、訪問地域での活動及び事業等の見聞を行い、研究者ではない活動者としての視点で各地における実態・実践の確認（調査）と目指すべく方向を模索し、不足する資源や地域間格差等を確認・考察していきます。

訪問地域の関係機関との協力の下、訪問地域での見聞（確認と調査）と共に、ミーティングを開催します。訪問地へは原則1泊2日間の行程と致します。

職域に依らないネットワークの足掛かりとしてのMLの開設。

インターネット等による随時の情報提供発信。

現地訪問予定等は以下の通り。

平成24年8月 米子市と出雲市

平成24年9月 札幌市 仙台市を柏市に

平成24年10月 鹿児島市 松山市

平成24年11月 唐津市 さいたま市

平成24年12月 宇都宮市 横浜市

|             |     |                  |
|-------------|-----|------------------|
| 平成 25 年 1 月 | 大津市 | 高知市を仙台市に         |
| 平成 25 年 2 月 | 東京都 | 中間報告             |
| 平成 25 年 3 月 | 広島市 | 静岡市              |
| 平成 25 年 4 月 | 松本市 | 名古屋市             |
| 平成 25 年 5 月 | 西宮市 | 旭川市              |
| 平成 25 年 6 月 | 京都市 | 柏市を高知市に          |
| 平成 25 年 7 月 | 那覇市 | 和歌山市あるいは新宮市      |
| 平成 25 年 8 月 | 伊丹市 | (ミニフォーラム開催) 完了報告 |

### 【期待される成果・波及効果】

医療・福祉分野でも際立って少数派とされてしまう重症心身障害、超重症児、遷延性意識障害、神経難病等といわれる方々の存在とその価値を確認し、その意識を深めることができるものと思われます。このことは少数派であるからということ等(医療ニーズが高い等)によって、これまで置き去りにされていた方々のみならず、現代の無縁だとか孤立等といわれる社会にとって、大切な価値観転換にも繋がるように思っています。

また、これまで実践としての成果が数少ないこういった方々への支援や、支援というよりも共に在りたいという思いはあれども実践として具体化できなかった方々(支援者等)へのバックアップ的な役割(アドバイスや連帯感など)として、研究期間に強化されていくネットワークが機能していくものかと思われます。

そのことによって、これまでの「在宅医療」という概念以上の新たな「地域生活支援医療(あるいは共生的医療)」(職域に依らないネットワークや職域に依らない支援者＝共生者の関係性等を通じて)が形成していけるのではないかと期待しています。

その結果、全国一律の仕組みとかではない各地域に即した新たな社会資源＝「もうひとつのカタチ」が生まれていく契機のひとつとなればと思っています。

【助成金使途内訳】

パソコン、デジタルカメラ、ICレコーダー、プリンタ、その他の汎用性のあるハード機器類、ソフトウェア、書籍購入費、学会参加費及びその旅費交通費、申請者及び共同研究者への給与・謝金、組織などの一般管理費等は助成対象となりません。また助成金使途内訳に記載されていないものへの助成金の使用は原則として認めることはできませんので、詳細をご記入ください。

| 費 目      | 金 額         | 算出根拠など   |
|----------|-------------|--|
| 旅費       | 953,000 円   | 全国 21 都市への JR 伊丹駅もしくは大阪空港からの往復交通費。                   |
| 宿泊費      | 300,000 円   | 全国 20 都市での宿泊費。1 泊 2 食/15,000 円で算出。                   |
| 現地移動費    | 260,000 円   | 全国 20 都市でのレンタカー1 泊 2 日/13,000 円で算出。                  |
| 会議費      | 147,000 円   | 各地でのミーティング費用として。1 回あたり(2~4 時間、5~10 人程度で)/7,000 円で算出。 |
| フォーラム開催費 | 44,000 円    | 会場費 34,000 円、配布資料費 10,000 円。                         |
| 報告書作成費   | 224,000 円   | 製本費 200 冊、切手(120 円×200)。                             |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
|          | 円           |  |
| 合 計      | 1,761,040 円 | ← 助成申請金額に一致  |

**【申請者の自己紹介】**

有限会社しえあーど及びNPO 法人地域生活を考えよーかいの2つの法人で地域での生活支援活動を事業と共に実施しています。

活動内容は拠点（敷地 113 坪、二階建て）を中心とした 24 時間切れ目無い支援活動（自立支援法等の制度と制度外でのサービスを使用して）をしており、特に著しくサービス提供がされ難い医療ニーズの高い（人工呼吸器管理を要する方や超重症児といわれる）方々等の支援を行っていますが、増加する需要に追いついていないという状況です。

また、少数派といわれてしまう方々、例えば重症心身障害等といわれる方々への支援活動（というよりも共に暮していくという協暮＝きょうぼ活動）を全国各地のみなさんとのネットワークにおいて実施しているところです。

**【他機関への助成申請の有無】**

|   | 機 関 名 称 | 助 成 金 名 称 | テ ー マ |
|---|---------|-----------|-------|
| ① |         |           |       |
| ② |         |           |       |

**【共同研究者】**

|   |      |   |            |  |     |   |
|---|------|---|------------|--|-----|---|
| ① | ふりがな |   | 生 年 月 日    |  | 性 別 |   |
|   | 氏 名  | 印 | 1 9 年 月 日生 |  | 男   | 女 |
|   | 所属機関 |   | 職 名        |  |     |   |
| ② | ふりがな |   | 生 年 月 日    |  | 性 別 |   |
|   | 氏 名  | 印 | 1 9 年 月 日生 |  | 男   | 女 |
|   | 所属機関 |   | 職 名        |  |     |   |
| ③ | ふりがな |   | 生 年 月 日    |  | 性 別 |   |
|   | 氏 名  | 印 | 1 9 年 月 日生 |  | 男   | 女 |
|   | 所属機関 |   | 職 名        |  |     |   |